

「友情を哲学する」 戸谷 洋志著 光文社新書 2023年2月発行

「ユウジョウ ヲ テツガク スル？」

ユウジョウはともかく、“テツガク”なんてオレの人生には関係ないヤイツ！」

という声が聞こえてきそうです。哲学なんていうのは、何だかよくわからないことを、わざわざ難しい言葉で説明しようとするのだという誤解が広く行き渡っています。一般に、哲学というものが何か縁遠いもののように考えられているようです。

「テツガクなんてよく分からないし、マンガ読んでる方がよっぽどマシじゃん？」

確かに、学問として体系立った哲学というものは、他の学問と同様に専門性が求められるものです。しかし、哲学する、すなわち哲学的にものを考えるということは、もっと日常生活に結びついたものあって、その場やテーマは私たちの生活の至るところにあるものなのです。学生の皆さんにとっての身近な話題といえば「勉強」か「友達」なのではないかと思います。勉強をテーマに哲学する本もたくさんあって、例えば『勉強の哲学』（千葉雅也 著）が面白いですが、ここで紹介するのは友達をテーマした本になります。

「友情」はギリシャ哲学を由来する立派な哲学的テーマですが、皆さんにとって身近なメディアであるマンガでも「友情」は好まれてテーマにされています。例えば『ONE PIECE』は「友情」をテーマとしたマンガの代表作の一つですが、本書ではなんとその『ONE PIECE』の他、『HUNTER×HUNTER』、『NARUTO』、『キングダム』、『3月のライオン』、『君に届け』、『青のフラッグ』、『タコピーの原罪』といったマンガの作品を題材にして友情を哲学していきます。これらのマンガの中に好きな作品がある人にとって、本書は一読の価値があるかも知れません。マンガを入りに、哲学を身近に感じていただければ幸いです。

ところで、現在の日本の若者にとって、QOLに友情が占める割合は、他の世代や他の国と比較して突出して高いそうです。友達とあれば幸福を感じられるということですが、友達がいなければそれだけで不安になるという不安定な状態とも言えます。

「友達っていったいどんな関係性なんだろう……」

「……私とあの子は友達なのかな」

こうした悩みをもっているあなたにとって、本書は友達との関係のあり方についてあなたと対話してくれることでしょう。忙しく過ぎてゆく世界の流れとは裏腹に、本はあなたが必要なときまで待っていてくれて、そして寄り添ってくれる存在なのですから。